

総 会 宣 言 (案)

私たちは、本日ここに、市内11支部が結集して、2020年部落解放同盟京都市協議会定期総会を開催し、人の世に熱と人間に光をもたらすため、さらに奮闘することを誓い合った。

部落解放同盟は、これまでから戦争は最大の人権侵害であることを強調し、安倍政権が遂行してきた戦争への道を突き進む政治を批判し、特定秘密保護法や、集団的自衛権を可能とする戦争法の撤回、アメリカの軍事戦略に則った軍事訓練と、多大な武器購入について反対を表明してきた。その政権も、森友・加計問題、桜を見る会にまつわる疑惑の払拭を拒み、検察庁法改悪さえ目論み、自らへの批判や多様な意見を排除した末に、7年8ヶ月という長期にわたる横暴に終わりを告げた。

しかし政権の官房長官の役職にあった菅義偉が継続を掲げ立候補すると、勝ち馬に乗るべき出来レースは、総裁「選挙」と名のつく民主主義の衣さえ剥ぎ取り、ほとんどの派閥の支持をもって勝利し、9月16日新内閣が成立した。

ただし新型コロナウイルスの収束は、まだまだ予断を許さない。世界中で行われたロックダウンにより経済、移動、外出そのものが制限され、経営破綻、生活破壊に見舞われた多くの人々が存在するこの事態をどう回復していくのか。少なくとも自らの国のみを第一として、壁を築き、他国や他者を収奪することで豊かになっていくという考え方は通用せず、ウイルスも地球温暖化も、ただ1国のみが無事にすむという状況でないことが明らかになったのだ。新自由主義がもたらした資本の利益を第一とする価値観が、環境も、人権もないがしろにしている以上、私たちは違う価値観を追究していかなければならない。

全国水平社創立100年まで、約1年半。真に人権が尊重される未来への道筋を着実に歩んでいこう。

この総会を契機に、京都市協に結集する全支部の団結をもって、部落完全解放と真の人間解放の社会を実現するよき日まで全力でたたかい続けることを、ここに宣言する。

2020年9月29日

2020年部落解放同盟京都市協議会定期総会